



指導主事だより

なんだか うれしい

教育委員会

相談時間等 月・水・金曜日

●立科小学校/午前9時～午前11時30分

電話 0267-56-3131 (呼)

●立科中学校/午後2時～午後5時

電話 0267-56-1076 (呼)

●立科町児童館/

午前 11時50分～午後1時40分

電話 0267-56-0303 (呼)

(担当 指導主事 中島 一彦)

良き子らの 祈る心を 燃える身を のぞく雨雲足早に去る



ひとりになれる ひとつになれる

三年生 「台風の日」から

S先生・・・

「ただ今の勝負・・・先生は よーく見ていましたよ」

子どもたちに投げかけるような大らかで、しかし毅然とした声が校庭に響き渡ります。その声に会場全体がはっとしたのです。先に棒を地面につけたのは赤でした。赤が勝ったと思われたのです。しかし練習の中で、ゴールはチームが最後尾に全員が腰を下ろした時点での決着・・・そのことを練習で意識し合っていた子どもたちなのです。

白も赤も、そのゴールをめざして駆け込みました。その上での判定でした。

スタートから三チーム目までは赤が徐々に差を広げ、三チームの時点で大きな差が開いていました。誰しもが赤の圧勝と思わされていました。

あと三チーム・・・そして残り二チーム目の白の子どもたち。その走りが不意に目に飛び込んできたのです。左端に位置していたK君。小柄なK君。中心から一番遠くに位置するK君。コーンを回転する場所で、中心にググッとより、棒の半径を極端に詰めて、短くしながら加速していくのです。

あっという間に差が縮まります。K君の声や思いは仲間たちの取り組みに大きなエネルギーを降り注いでいきました。

「あきらめるな！」そんな叫びのようにも感じられる走りなのです。

最終チームの争いになりました。

懸命に追い上げる白、逃げ切る赤！赤が竹さおを地面に置いた瞬間、応援席から歓喜の声が上がります。しかし、勝負はそこからだったのです。白の子どもたちはK君の懸命さがチームの中に広がるように最後尾の全員着席を目掛け、腰を低くし、一つのまとまりのように最後尾座り込みました。全員が膝を抱え、背筋を伸ばし、前を見つめたのです。その整列にほんの少し遅れを取ってしまった赤。しかし敗れたとは言え、見事な戦いぶり。

一人になって、自分の役割を果たし、その一人ひとりがチームとしてのまとまりを生み出したドラマチックな運動会の一コマ。子どもたちを最後まで見つめ、我が子たちと共に歩もうとしたS先生の懸命さ・・・そして思わず

「先生は、よーく見ていましたよ」という子どもたちの取り組みに対する感動の声。感謝の声、そして何かを乗り越えようとひとつになろうとした白赤の子どもたち、その姿に涙があふれそうになっているS先生の声なのだと思うされたのです。